

東日本震災からの創造的な復興と復興共創を掲げ、宮城県はさまざまな取り組みに力を注いでいる。具体的に動き出した最前線の現場にスポットを当て、県職員を基に紹介するルポの第2回で訪ねたのは南三陸町。ブランド化を図る地場産木材の生産現場だ。山と海の豊かな生態系に育まれ、環境保全の国際認証も受けた良材を全国に売り込むと、生産者らが地元自治体などとも連携しながら挑戦を続けている。

地場産木材ブランド化へ

浅海漁業を中心とした水産物のイメージが強い南三陸町。しかし町の全面積の7割を山林が占めており、林業と歩み続ける風土はあまり知られていない。豊かな森林資源の付加価値を高める有効活用したいと、地域が一体となり、良材の産地としてブランドの「南三陸杉」に光を当てながら林業振興を図る動きが活発だ。

志津川湾を見下ろす高台の志津川天王山地区。丸平木材が製材所を構える。明治の創業から100年を超える老舗だ。約1万5000平方メートルと広大な面積の加工場には最新鋭の製材設備がそろっている。

小野寺邦夫社長は案内しながら「もともとは漁港近くにあって」と、震災の大津波被災により2012年に移転、再稼働した経緯を口にした。

「なぜマイナスイメージから再びスタートしたか。森は震災にも負けず緑を保ち続け、木が持つ力を生かす。命を二層輝かせ、人々の暮らしや地域に貢献するよう自分を奮い立たせてくれた。明快な言葉の根底には、企業論理を超えた地元森林に対する感謝の念がある。」

フルラインの工場内は、無垢の構造材や壁、床の内装材などの加工工程がまはる。木が持つ精油成分がまはる。木が持つ精油成分がまはる。木が持つ精油成分がまはる。

ルポ②

「南三陸杉」世界へPR

新国立競技場採用も狙う

歴史がある。古くから良材を生み出してきたが、小規模生産だったこともあり、全国的に知名度が高くないと、震災の大津波被災により2012年に移転、再稼働した経緯を口にした。

「なぜマイナスイメージから再びスタートしたか。森は震災にも負けず緑を保ち続け、木が持つ力を生かす。命を二層輝かせ、人々の暮らしや地域に貢献するよう自分を奮い立たせてくれた。明快な言葉の根底には、企業論理を超えた地元森林に対する感謝の念がある。」

フルラインの工場内は、無垢の構造材や壁、床の内装材などの加工工程がまはる。木が持つ精油成分がまはる。木が持つ精油成分がまはる。



適正に管理、生産されたFSC木材を取り扱う丸平木材。地元良材の需要拡大に向け、活発に事業を展開する南三陸町志津川天王山



ブランドの「南三陸杉」を使い建築された南三陸町の災害復興住宅。民間住宅への普及も期待される

目標指標の例	策定時	目標値
木材の産出額 (林業産出額)	47億円	77億円
木材・木製品出荷額	685億円	837億円
きのこ等特用林産物の産出額	36億円	53億円
間伐実施面積	4,645ha	5,600ha
県民や企業等の森林づくり面積	22ha	80ha
森林保全推進活動ボランティア数	97人	150人
山地災害危険地区における治山事業着手法	196カ所	296カ所

村井知事



南三陸杉をはじめとして、宮城県には豊かな地域資源があります。その価値を再発見し、さらに磨き上げることができるよう、県としても地域の皆さまと連携・協力しながら、産業の競争力強化を図ってまいります。

地域資源生かし産業振興

特に、東日本大震災からの復興・再生という過程の中で、地域資源の新しい価値を加え、ブランド化する動きが県内で見られます。全国、そして世界に誇れる地域ブランドは、先頭に立つて魅力発信・ブランド化に努めてまいります。

雇用創出にもつながる

宮城県の年間木材需要量は約120万立方メートルで、このうち、県産材が使われているのは半分ほどに過ぎない。残り他県産材や海外からの輸入材が使われている。残り他県産材や海外からの輸入材が使われている。残り他県産材や海外からの輸入材が使われている。

「南三陸杉」は年間3000立方メートルの生産能力を誇る。このうち杉は8割を占め、FSC木材は年間3000立方メートルの生産能力を誇る。このうち杉は8割を占め、FSC木材は年間3000立方メートルの生産能力を誇る。



屋根構造に大量の木材を用いる新国立競技場の完成イメージ(大成建設・特許設計・隈研吾建築都市設計事務所JV作成)の提供

国際競争力を高める体制構築に期待は大きい。南三陸町の森林関係者は20年の東京五輪の舞臺を視野に入れ、FSC材を使った戸建ての災害公営住宅が整備される。今後は民間住宅分野の需要も見込める。

相次いで着工した南三陸町志津川、歌津両地区の被災店舗などが入る観光交流関連施設整備もその一環だ。いずれも地元産の杉を使った木造構造で、関係者は「木材が醸す温かみのある空間に人が集い、にぎわう光景を思い描く。」

県は地方創生総合戦略を進める上で、農林水産業の成長産業化に注力する。「みやぎ森林・林業の将来ビジョン」を軸に、活力や多様性を生み出す政策を展開し、支援を重ねる。最前線となる南三陸町の林業界には新たな潮流が生まれており、地域復興や地方創生の実現に向けた一つのモデルケースになりそうだ。

同行を終えて

宮城県林業振興課 玉手 智史技師

豊かな自然 活用へ努力

震災から5年。南三陸町も一見、復興が進んでいるように見えるが、過疎化と人口減に直面している。復興と並行して人に優しい、魅力ある街づくりが課題だと感じた。

小野寺邦夫社長が話されるように、FSC認証の取得はあくまできっかけなのだろう。地域振興・地方創生を語る上で、根底にある自然や人の暮らしを忘れてはならない。100年先の人の営みを掲げ、自然と正面から向き合い、その力を大切に使うことが重要ではないだろうか。

県の林業に携わる者として、業務の一つ一つが自然と人の豊かさにつながるよう、着実に努力を重ねていきたい。

杜の家 morinoie

地域の無垢材が 家族をやさしくつつむ家です

長期優良住宅仕様 | 認定低炭素住宅仕様 | CASBEE評価対応

「優良みやぎ材」を使用
「優良みやぎ材」とは県産の木材を使用し、県内の製材工場等で加工された製品で、「みやぎ材利用センター」が乾燥や強度・寸法などの一定の品質基準を検査・認証した木材及び合板のことです。

地震への強さが違う | 無垢材をふんだんに | 暖かさ&防音性がちがう | 自由な間取りプラン

仙台・石巻・亶理・佐沼にてモデルハウス公開中!

注文住宅以上に住む人のことを考え、こだわった無垢の家が誕生します。

まえやち駅 目の前町 MENOMAE TOWN

JR石巻線「前谷地」駅のすぐ目の前という立地に

全20区画誕生!

注文住宅以上に住む人のことを考え、こだわった無垢の家が誕生します。